

# ロッドビシ

## 初めにロッドビシ鐮とは

ベイトのハゲロッド等 1.8m 位にトルクのあるベイト中型リール に  
ライン(PE 3~4号 150m) が付いたタックルに付けて釣る鐮の道具である。

ビシ系は先から 大ビシ 12m、中ビシ 8m、小ビシ 8m の計 28m となっております。  
ハリスは5号を一ヒロ(約 1.5m) 4号を三ヒロ(約 4.5m)八の字結びでチチワを作り5号と4号を  
連結しています。ロッドビシは 大ビシ、中ビシ、小ビシがそれぞれ単体に使えます。  
連結部分がテグスの輪になっており、取り外しが出来ます。

【例 1 大ビシのみ使う場合(水深が 30m 未満の浅場)】

【例 2 大ビシと中ビシの二つを使う場合(水深が 50m ~ 60m 位)】

水深があればまずは基本である3本の状態で慣れてから2本、1本で使う事をお勧めします

底どりですが ロッドをシャクル事により ビシと鐮がロッドに「二度打ち」という形で応えて来ま  
す。鐮が底に着けばロッドをシャクッても ビシ だけがロッドに伝わって「一度」しか打ちません。  
ようは二回打てばまだ底についてない 一回しか打たなければ底についているという判断です。  
ロッドをシャクって「トン、トン」と 二回穂先が応えなければ 底 という訳です。

現状では正式にロッドビシ専用のロッドが無い状態なので代用に「カワハギロッド」をお勧めします。

誘いの幅ですが 魚が付いてきてるのがわかるようになれば(もしくはわかったら) 魚が反転して  
針に掛かるまで誘えばいいんですが、そうでない場合は 慣れる までは 10~15m 誘う方が  
良いです。「誘い」とは唯、ただ 一定の速度でリールを巻き続けるだけです。(この際、シャク  
ったりアワしたりしない)

慣れればだいたい5m 前後しか誘わなくなりますが魚が浮いてる場合もあるので長く誘う方が良い時  
もあります。

ビシ系装着して投入後、 魚をかけてリールを巻き上げて PE からビシ系まで来たら 足元に  
ビシを手繰るのも良いが 浅く水の張った大きめのタライ等に入れていく方がビシ系が絡みにく  
い。又、船ベリ等に 水に濡れたタオル等を敷いてその上にロッドを置いてリールを巻き誘いを  
かける方が安定して良い。